

鳴門教育大学附属中学校
学校関係者評価報告書

(平成25年度)

平成26年3月

学校関係者評価委員会

目 次

学校関係者評価委員会が実施した学校評価について	1
I 学校関係者評価結果	3
II 評価項目ごとの評価	9
1. 楽しい学校	9
2. いじめの撲滅	10
3. 生徒と向き合う時間の確保	11

参考：学校の現況及び目的

学校関係者評価委員会が実施した学校評価について

はじめに

本報告書は、保護者、学校評議員、大学教員、地元の企業経営者で構成された学校関係者評価委員会が、附属中学校の教育活動の観察や校長ほかとの意見交換等を通じて、附属中学校の自己評価の結果について評価することを基本に学校関係者評価を実施し、その結果を報告書として取りまとめたものである。

1 評価の目的

学校評価は、次の3つを目的として実施するものである。

- ① 学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- ② 学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
- ③ 学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講ずることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

2 評価のスケジュール

25年7月	第1回学校関係者評価委員会(委員長の選出, 評価項目ごとの評価担当者の決定)
9月	文化祭参観, 校長との意見交換
11月	オープンスクール参観, 校長との意見交換
26年3月	第2回学校関係者評価委員会(評価報告書のまとめ)

3 学校関係者評価委員会委員(平成25年3月現在)

- | | |
|---------|-------------------|
| 湊 暁美 | 保護者会会長 |
| 手束 直胤 | 元附属中学校学校評議員・本校卒業生 |
| ○ 今倉 康宏 | 鳴門教育大学特任教授 |
| 稲木 紀彦 | (株)トクジム代表取締役社長 |

○は委員長

4 本評価報告書の内容

(1) 「Ⅰ 学校関係者評価結果」

「Ⅰ 学校関係者評価結果」では、「Ⅱ 評価項目ごとの評価」において評価項目 1 から 3 のすべての評価項目の内容を総合的に判断し、4 段階評価で記述しています。また、学校の目的に照らして、「主な優れた点」、「主な改善を要する点」を抽出し、上記結果と併せて記述しています。

また、保護者を対象とした「学校評価アンケート」調査結果についても記述しています。

(2) 「Ⅱ 評価項目ごとの評価」

「Ⅱ 評価項目ごとの評価」では、評価項目 1 から 3 において、当該評価項目が達成されているかどうかの「評価結果」及び、その「評価結果の根拠・理由」を記述しています。加えて、取組が優れていると判断した場合や、改善の必要がある場合には、それらを「優れた点」及び「改善を要する点」として、それぞれの評価項目ごとに記述しています。

(3) 「参考」

「参考」では、自己評価書に掲載されている「Ⅰ 学校の現況及び目的」を転載しています。

5 本評価報告書の公表

本報告者は、鳴門教育大学に提供するとともに、設置者に提出します。また、ウェブページ (<http://www.kinsch.naruto-u.ac.jp>) への掲載により、広く社会に公表します。

I 学校関係者評価結果

鳴門教育大学附属中学校の学校関係者評価は、内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

これらの評価に至った根拠については、「II評価項目ごとの評価」の欄に詳細に報告しているので、ここでは、本校の教育目標である①楽しい学校(評価項目1) ②いじめの撲滅(評価項目2) ③生徒と向き合う時間の確保(評価項目3)の3本柱における達成度を総括する。

【主な優れた点】

評価項目1 楽しい学校(思考力・判断力・表現力を育む授業の創造)

生徒が、言語活動を充実させ、考えをまとめたり、深めたり、協議したりすることで、学ぶ喜びを実感させるために、教員全員が、指導計画・方法、教材・教具等の工夫改善を行い、生徒の思考力・判断力・表現力を育む授業の創造に努めており、以下のように生徒の学習意欲を高めるとともに、基本的な学習習慣や態度の育成において着実に効果を上げている。

- ① 日々の授業の中で、言語活動を充実させたことにより、生徒が主体的に考えをまとめたり、深めたりする能力が高まり、昨年度に比べ、科学・技術者の発掘・養成講座、科学の甲子園ジュニア、創造ものづくりコンテスト、ロボットコンテストなどに自主的に参加する等、仲間と意見交換しながら学ぶことを好む生徒が増加し、全国3位以上のレベルの表彰を多く得ることができた。
- ② 平成23年度から継続して文部科学省「教育課程研究指定校事業」を受託し、言語活動を充実させて思考力・判断力・表現力を育成する授業を文部科学省教科調査官を年2回以上招き指導助言を受けながら実践研究を推進している。また、その研究成果を全国に報告し、高く評価されるなど指定校としての役割を十分果たしている。
- ③ 平成25年度全国学力・学習状況調査の結果において、本校の生徒の国語・数学におけるA(主として知識を問う問題)とB(主として活用を問う問題)の各平均正答率が全国国立平均を上回っており、比較的高い学力結果を得ている。これらの結果は、本校の教育目標が、十分達成されていることを示している。

評価項目2 いじめの撲滅

保護者と教師、教師と生徒、生徒間において、相手の状況(思い)を踏まえた適切なコミュニケーションを行うことで信頼関係を築き、学校を安心して過ごせる場にするため種々の取り組みを行い以下のように着実に効果を上げている。

- ① ラインによるいじめを解決するなど、生活アンケートを契機として、生徒から教員に訴えのあった数件のいじめを保護者を含めて粘り強く話し合いを続け、徐々にいじめの件数が減少している。
- ② 法律に基づき、いじめは許されない人権侵害ととらえ、学校生活全般を通じて人権教育や規範意識を高める教育を進めるとともに、いじめ調査、Q-U調査、面談、日記指導等をとおしていじめの発見に努め、いじめ防止に関して保護者と連携して、積極的に生徒の生活習慣の重要性の啓発を行い、生徒の基本的な生活習慣の確立を図り、徐々に効果を上げている。

評価項目3 生徒と向き合う時間の確保

教師は、大変忙しい中、授業はもとより、生徒の自主活動である部活動や休み時間、ワークシー

ト等においても、積極的に関わったり、見守ったりする時間をできる限り確保し、生徒理解を深め、次のような種々の成果を挙げている。

- ① ほとんどの教員が資質向上プログラム（自己目標の達成状況及び評価指標と照らした職務遂行状況を自己評価するプログラム）により、楽しい授業の開発に取り組み、新しい指導法・教材教具等が数多く開発され、研究授業等を通して「教職員の資質向上」ひいては「児童生徒に対する教育の質の向上」が認められる。
- ② ほとんどの教員が生徒に関わる時間の確保に努力し、それが生徒理解を深め、「今もいじめが続いている」と訴える生徒、及び不登校生徒が減る傾向にある。
- ③ 「学習と連絡」「ワークシート」「ノート」などの点検やICTを活用した業務の効率化を図り勤務負担を軽減するための様々なアイデアを生み出し実践することで、いくつかの業務を効率化することができている。

【主な改善を要する点】

評価項目1 楽しい学校（思考力・判断力・表現力を育む授業の創造）

1学級当たりの生徒数減（35人学級の実現）、ティームティーチング・習熟度別指導が可能な人的配置、先進的なICT機器による教材教具の開発といった環境整備を進めることが重要である。授業改善を目指し、さらなる大学との共同研究を進め、生徒一人一人の状況の把握に務め、十分ではない生徒への個別指導や生徒同士の学び合いを徹底することによって、生徒一人一人にとって学ぶ喜びに満ちた「楽しい学校」づくりを強力に推し進めてほしい。

評価項目2 いじめの撲滅

不登校・いじめの問題は、少しずつ地道な対応を継続していくしか解決への道はなく、本校では本年度も不登校生徒については、担任を中心にスクールカウンセラー及び保護者と連絡を密にして指導にあたり、解消に向けてその兆しが見え始めている。また、いじめについては、その予防が重要であることから、本年度取り組んだ「生徒会を中心とした取組」「教員が生徒に関わる時間の確保」をさらに推進するとともに、道徳や学活における指導を充実させていくなど、担任はもとより保護者、専門家、学年団・管理職が一体となって組織的に対応するなど、効果が見え始めている。

今後とも緩むことなく「必ずいじめはある」という認識のもと、さらなる連携を図り、予防教育を継続し適切な対人関係を意識させると共に、人権学習を充実させ人権感覚を高めたりする取組を更に推進してほしい。

評価項目3 生徒と向き合う時間の確保

平成25年度教員対象学校評価アンケートの結果において、楽しい授業に取り組んではいるものの4割の教員が新たな開発にまで至っていない。厳しい環境ではあるが、研究開発校であることから、常に新たな指導法や教材教具を生み出す創造力をかき立てる学校運営によりいっそう尽力してほしい。また、業務を効率化して早く帰宅するなど勤務時間の短縮に向けた取組の効果を6割弱の教員が実感しているものの、4割強の教員は勤務時間を短縮することができていない。すでに大学教員も含んだ教員間の連携、保護者会の協力等、お互いの仕事を補佐する体制はほぼ確立されていると思われ、もはや教員の事務負担の軽減等を工夫する余地がほとんどないのが現状である。このような大変厳しい環境の下、よりよい教育実践や教育実習、部活動指導を推進するには、大学との連携・支援により、よりいっそうの部活動指導者や学校ボランティアを配置するなど人的配置の増員がはかれることを希望する。

○「学校関係者評価結果」は、次の4通りで判断します（「Ⅱ評価項目ごとの評価」の判断も同じ）。

A 十分達成されている

B 達成されている

C 取り組まれているが、成果が十分でない

D 取組が不十分である

○上記の他、「学校関係者評価結果」として、評価項目の観点ごとに抽出した「優れた点」、「改善を要する点」を要約し記述します。なお、「優れた点」、「改善を要する点」を要約するに当たっては、当該学校の目的に照らして、重要な位置付けにあると考えられる取組状況を考慮した上で、精選・整理したものを記述します。

【平成25年度 保護者対象学校評価アンケート集計結果】

保護者を対象に実施した本校の本年度の重点目標「(①楽しい学校(6項目), ②いじめの撲滅(12項目), ③生徒と向き合う時間の確保(6項目)」に関する保護者対象学校評価アンケート(p.8に記載)の結果を総括する。(調査対象数472名中, 413名の回答)

本年度の結果は, 平成24年度に比べて多くの項目で向上を示し, 全ての調査項目で「当てはまる」が80%を超えており, 普段の指導・保護者対応等が, 適切に行われた成果と思われる。生徒・保護者が本校の目標「楽しい学校」に対する取組に関して多くの理解を示し, 本年度の重点目標を概ね達成できていると高い評価をしている。その一部を下記に紹介する。

- 「先生は授業をわかりやすくていねいに教えている」に対する「よく当てはまる・当てはまる」の回答が94.9%(昨年度90.8%)
- 「先生は楽しい授業となるよう工夫している」に対する「よく当てはまる・当てはまる」の回答が91.5%(昨年度89.4%),
- 「先生は生徒の考えをまとめたり, 発表したり, 生徒同士で協議したりする学習を多く取り入れている」に対する「よく当てはまる・当てはまる」の回答が94.7%,
- 「生徒は自ら学ぼうという意欲を持っている」に対する「よく当てはまる・当てはまる」の回答が91.8%(昨年度86.6%)
- 「生徒は楽しい学校生活を送っている(95.6%)」, 「先生のあいさつやマナー, 電話などでの対応はよい(96.6%)」, 「生徒は服装や身なりがきちんとしている(96.4%)」, 「先生は連絡帳やワークシート等を点検している(97.8%)」

【平成25年度 全国学力・学習状況調査分析(中学3年 生徒質問紙調査等の結果から)】

本年度学校重点目標と関連づけて質問紙調査の結果を分類し, 全国国立平均と比較した結果を一部紹介する。

I 基本的生活習慣の確立(楽しい学校の必要条件)

(1) 早寝・早起き・朝ご飯

「朝食を食べている・どちらかといえば食べている」と回答した生徒の割合は97.5%(全国国立平均95.7%)と多い。また, 「家の人と普段夕食を一緒に食べている・どちらかといえば食べている」と回答した生徒の割合も81.9%(全国国立平均76.8%)と多い。

(2) テレビゲーム, ネット依存(携帯電話・スマートフォン)

- ① 「1日当たり2時間以上テレビゲーム等(携帯ゲーム含む)をする」と回答した生徒の割合は6.4%(全国国立平均13.2%), 「1日当たり2時間以上テレビ・ビデオ・DVDを見たり聞いたりする」と回答した生徒の割合は19.4%(全国国立平均28.9%)と少ない。
- ② 「1日当たり2時間以上インターネット(携帯電話・スマートフォンを使う場合を含む)を使う」と回答した生徒の割合は13.5%(全国国立平均20.2%), 「携帯電話・スマートフォンで通話やメールをほぼ毎日している」と回答した生徒の割合は28.4%(全国国立平均46.3%)と少ない。こうしたことから全国平均と比較してネット依存は少ないが, SNS(ソーシャルネットワークサービス)を使った人間関係のもつれが問題となっている現状においては3割程度が, ほぼ毎日, 通話やメールをしていることに留意する必要がある。

(3) 家族との関わり

家での手伝い、家族との会話等、家族との関わりに関する調査結果は、全国国立平均（50～70%）とほぼ同じである。家族との関わりを深めるとともに良好な対人関係の構築に欠かせない事項であるため、より充実させる必要がある。

（４）学校の授業時間以外における勉強時間

「授業時間以外に一日２時間以上勉強する」と回答した生徒の割合は 79.4%（全国国立平均 60.2%）と多い。また、「家で学校の授業の予習をしている・どちらとといえばしている」と回答した生徒の割合は 49.7%（全国国立平均 38.8%）、「家で学校の復習をしている・どちらとといえばしている」と回答した生徒の割合は 74.2%（全国国立平均 57.6%）と多い。

Ⅱ 楽しい学校

（１）学ぶ喜びを実感できる授業の実践

「普通の授業で自分の考えを発表する機会が与えられている・どちらかといえば与えられている」と回答した生徒の割合は 95.5%（全国国立平均 90.8%）と多い。

（２）思考力等を高める指導方法、教材・教具等の開発

本校の教員の努力により国語・数学の（A：主として知識を問う問題）（B：主として活用を問う問題）ともに、全国国立平均に比べてやや高い学力結果を得ている。

Ⅲ いじめの撲滅

生活習慣等を問うた質問項目の回答結果が、以下に示したように、前回の調査よりもよくなっていることから、地道に家庭との連携を図ってきた成果が出始めていると考えている。

（１）学校生活

「学校に行くのは楽しいと思う・どちらかといえば思う」と回答した生徒の割合は 89.1%（全国国立平均 87.1%）、「学校で友達に会うのは楽しいと思う・どちらとといえば思う」と回答した生徒の割合は 94.8%（全国国立平均 95.8%）と多い。

「学校の規則を守っていると思う・どちらとといえば思う」と回答した生徒の割合は 96.8%（全国国立平均 92.7%）と多い。

「いじめは、どんな理由があってもいけない・どちらかといえばいけない」と回答した生徒の割合は 93.5%（全国国立平均 91.6%）と多い。

（２）コミュニケーション力

「人の気持ちが分かる人間になりたい・どちらとといえばになりたい」と回答した生徒の割合は 96.2%（全国国立平均 95.3%）と多い。

平成25年度 保護者対象学校評価アンケート
(平成26年2月13日～17日実施)有効回答者数 413人
※生徒と話し合った上で回答するよう依頼

平成24年度 保護者対象学校評価アンケート
(平成25年2月22日～28日実施)
有効回答者数 433人

	よく当てはまる (A)	当てはまる (B)	当てはまらない (C)	全く当てはまらない (D)	無答	よく当てはまる・当てはまる A+B	当てはまらない・全く当てはまらない (C+D)	よく当てはまる (E)	当てはまる (F)	当てはまらない (G)	全く当てはまらない (H)	無答	よく当てはまる・当てはまる E+F	当てはまらない・全く当てはまらない (G+H)	「よく当てはまる・当てはまる」の比較 (A-I)	
○楽しい学校 ○学び喜びを実感できる授業 ○教材教具等の開発 ○思考力等を高める指	先生は授業をわかりやすく教えている	28.3%	66.6%	4.6%	0.2%	0.2%	94.9%	4.8%	30.3%	60.5%	5.8%	0.9%	2.5%	90.8%	6.7%	4.1%
	先生は楽しい授業となるよう工夫している	32.2%	59.3%	8.0%	0.2%	0.2%	91.5%	8.2%	27.5%	61.9%	7.9%	0.7%	2.1%	89.4%	8.6%	2.1%
	先生は、生徒の考えをまとめたり、発表したり、生徒同士で協議したりする学習を多く取り入れている	47.0%	47.7%	5.1%	0.0%	0.2%	94.7%	5.1%								
	生徒は楽しい学校生活を送っている	50.6%	45.0%	4.1%	0.2%	0.0%	95.6%	4.4%	47.3%	49.0%	3.2%	0.2%	0.2%	96.3%	3.4%	-0.7%
	生徒は自ら学ぼうという意欲を持っている	32.7%	59.1%	7.0%	1.2%	0.0%	91.8%	8.2%	31.2%	55.4%	11.3%	0.5%	1.6%	86.6%	11.8%	5.2%
	学校は落ち着いた学習に取り組める雰囲気がある	41.4%	51.1%	7.0%	0.5%	0.0%	92.5%	7.5%	37.6%	55.0%	5.5%	0.5%	1.4%	92.6%	6.0%	-0.1%
○いじめ調査の実施とその結果を踏まえた取組の充実	先生のあいさつやマナー、電話などでの対応はよい	55.0%	41.6%	2.2%	0.5%	0.7%	96.6%	2.7%	51.0%	46.0%	2.1%	0.0%	0.9%	97.0%	2.1%	-0.4%
	先生の生徒に対する言葉遣いや態度が適切である	40.9%	51.3%	6.3%	0.7%	0.7%	92.3%	7.0%	34.2%	55.9%	8.1%	0.7%	1.2%	90.1%	8.8%	2.2%
	生徒は正しい言葉遣いをしている	23.0%	63.4%	12.6%	0.7%	0.2%	86.4%	13.3%	19.2%	65.4%	13.6%	0.5%	1.4%	84.6%	14.1%	1.8%
	生徒は交通ルールやきまりを守っている	20.3%	58.8%	19.4%	1.5%	0.0%	79.2%	20.8%	14.5%	61.4%	20.1%	0.9%	3.0%	75.9%	21.0%	3.3%
	生徒はあいさつができています	31.5%	60.8%	6.5%	0.7%	0.5%	92.3%	7.3%	24.2%	60.7%	13.2%	0.5%	1.4%	84.9%	13.7%	7.4%
	生徒は服装や身なりがきちんとしている	39.0%	57.4%	2.7%	0.2%	0.7%	96.4%	2.9%	33.7%	63.5%	2.1%	0.0%	0.7%	97.2%	2.1%	-0.8%
	生徒は互いに相手の思いや立場を踏まえて会話をしている	20.8%	67.6%	10.7%	0.7%	0.2%	88.4%	11.4%								
	学校は保護者が先生に相談できる雰囲気がある	26.4%	59.1%	12.8%	1.5%	0.2%	85.5%	14.3%	30.5%	53.1%	13.6%	1.2%	1.6%	83.6%	14.8%	1.9%
	学校から家庭への電話連絡等が適切に行われ、状況に応じた対応がなされている	36.6%	55.7%	6.5%	1.2%	0.0%	92.3%	7.7%	42.0%	50.3%	4.2%	0.2%	3.2%	92.3%	4.4%	0.0%
	学校は、教師と生徒、生徒相互の人間関係が円滑である	24.9%	64.2%	10.2%	0.7%	0.0%	89.1%	10.9%								
	家庭において相手の立場に配慮した言動を指導している	31.0%	63.4%	4.6%	0.0%	1.0%	94.4%	4.6%								
	自分の子どもは家庭で学校の様子をよく話す	37.8%	42.4%	16.7%	2.9%	0.2%	80.1%	19.6%	32.8%	43.6%	19.6%	3.2%	0.7%	76.4%	22.8%	3.7%
	○生徒と向き合う時間の確保	先生は一人一人の生徒を理解しようとしている	31.2%	58.4%	9.7%	0.7%	0.0%	89.6%	10.4%	23.6%	59.6%	13.9%	0.9%	2.1%	83.2%	14.8%
先生は生徒からの質問や相談に適切に対応している		35.8%	57.1%	6.5%	0.5%	0.0%	93.0%	7.0%								
先生は部活動等指導に関わっている		37.5%	55.9%	5.6%	0.7%	0.2%	93.5%	6.3%								
先生は連絡帳やワークシート等を点検している		51.8%	46.0%	1.7%	0.2%	0.2%	97.8%	1.9%								
先生は始業前に教室にいる		40.4%	50.8%	8.2%	0.2%	0.2%	91.3%	8.5%								
自分の子どもは朝学校が始まる5分前には登校している	60.5%	30.0%	6.8%	1.9%	0.7%	90.6%	8.7%	54.5%	34.4%	9.2%	1.6%	0.2%	88.9%	10.8%	1.7%	

II 評価項目ごとの評価

評価項目1 楽しい学校（思考力・判断力・表現力を育む授業の創造）

<目標>

言語活動を充実させ、考えをまとめたり、深めたり、協議したりすることで、学ぶ喜びを実感させる。そのために教師は、指導計画・方法、教材・教具等の工夫改善に努める。

【評価結果】 4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

（評価結果の根拠・理由）

教師が以下に示したように、日々の授業の中で、言語活動を充実させたことにより、生徒が主体的に考えをまとめたり、深めたりする能力が高まり、昨年度に比べ、コンクール等において全国レベルの表彰を多く得ることができるなど、大いに評価できる。

観点1-1 学ぶ喜びを実感できる授業の実践

全ての授業において、生徒が、自分の考えをまとめたり、深めたり、協議したりする言語活動を充実させることができているか。

平成23年度から継続して文部科学省「教育課程研究指定校事業」を受託し、言語活動を充実させて思考力・判断力・表現力を育成する授業を実践研究に取り組み、以下の成果を上げている。

- ① 思考力・判断力・表現力の育成を目指して行われている各教科の活動を分析し、「説明」「記録」等といった教科を横断する要素で分類し、「説明」「記録」等のような外に表現されるものと、そこに至るまでの「解釈」「選択」「構想」等のような内で行われるものがあることが明らかにしている。これを「言語活動の要素」と定義し、「言語活動の要素分析表」を作成している。
- ② 言語活動は、内で行われる活動と外で行われる活動を繰り返すことが必要であると考え、「言語活動の構造化」と定義している。「言語活動の構造化を図った授業」をすべての教科で共通に取り組むことで、連続的な思考・判断が促され、思考力・判断力が深まり、その結果、外に表れる表現力も高める授業展開方法を確立している。
- ③ 提案した理論に基づき、全ての教科において言語活動を充実させて思考力等を育成する研究授業及び授業研究会を年12回以上行っている。また、6月7日に研究発表会を開催し、鳴門教育大学関係者はもとより文部科学省教科調査官、徳島県教育委員会教育次長等、多くの有識者を招いて、本校の実践研究に係る指導助言を頂くなど、言語活動の構造化を図った授業を年間指導計画に位置付け、活用させたい知識・技能、学習課題、評価方法を示した。さらに、観点ごとに評価規準と、それを見取るための評価方法も提案している。

観点1-2 思考力等を高める指導方法、教材・教具等の開発

生徒の思考力等を高めるための指導方法や教材教具を開発することができたか。

（1）可視化する教具の開発とそれを活用した指導方法

自己認識及び共通認識を図るための手立てとなる授業を、思考・判断・表現を可視化する教材の開発を通して展開し効果を上げている。

(2) 活用カード・シートの開発とそれを活用した指導方法

知識・技能の明確化、あるいはその活用を円滑に行うための手立てとして作成した活用カード・シート（「活用カードα」＝『知識・技能』が整理・集約されたカード（シート）」、「活用カードβ」＝「考え方や課題解決に至る過程等を示したカード（シート）」）を使った授業展開を確立している。

(3) 言語活動の構造化に即したワークシートの工夫

全ての教科に共通した「言語活動の構造化」の流れを生徒に意識させるために、各教科で使用する構造化の流れに即したワークシートを作成（生徒自身が思考・判断の過程や変化を確認・評価できる）している。

(4) 学びの振り返り

生徒の思考力等を高める教材教具・指導方法を多く開発・実践しており、生徒に「学びの振り返り」をさせることで、生徒一人一人が思考・判断・表現した過程を顧み、その過程を整理し、自らの思考・判断・表現の変容及びその理由を確認するといった活動を行い、どのような力を習得したのか自己認識させる授業を展開している。

評価項目2 いじめの撲滅

<目標>

保護者と教師、教師と生徒、生徒間において、相手の状況（思い）を踏まえた適切なコミュニケーションを行うことで信頼関係を築き、学校を安心して過ごせる場にする。

【評価結果】 以下の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

(評価結果の根拠・理由)

ラインによるいじめを解決するなど、生活アンケートを契機として、生徒から教員に訴えのあった数件のいじめを保護者を含めて粘り強く話し合いを続けるなどして解決を図り、下記に述べるように効果的ないじめ防止対策を行って成果を上げていることは評価できる。

観点2-1 コミュニケーション力を高める活動の充実（生徒重点目標：伝わる言動）

(1) 交流活動の充実

指導者と生徒、生徒同士の交流活動を設定した授業を行い、円滑な人間関係に欠かすことのできない「生徒が互いに意見を出し合い、問いかけ合い、説得し合うといったコミュニケーション力」を高めている。

(2) NIE教育（Newspaper in Education = 「エヌ・アイ・イー」）

NIE 実践指定校として、新聞を教材として活用する教育の実践研究を進めており、その中で、コミュニケーション力を高める活動を実践することによって不登校生徒の減少に貢献している。

観点 2-2 いじめ調査の実施とその結果を踏まえた取組の充実
調査により現状を把握し、いじめを防止する取組を進めることができたか。

(1) 生活アンケートの実施

生活アンケートを年3回実施(5月16日, 7月8日, 12月3日:すべて無記名調査)し, 本校におけるいじめの実態を把握するとともに, これを契機として生徒や保護者から数件寄せられた, いじめの相談の一つ一つについて, 担任はもとより管理職・生徒指導主事を含む校内生徒指導組織による対応を行い成果を上げている。

また, 6月21日, いじめ防止対策推進法が成立したことを受け, 校長より「法律に基づき, いじめは許されない人権侵害ととらえ, 学校生活全般を通じて人権教育や規範意識を高める。」ことを宣言する文書を生徒・保護者に発出し, Q-U調査, 面談, 日記指導等を通して, その取組を進めている。

こうしたことがきっかけとなって生徒会がいじめ撲滅宣言「なかよしの宣言」を公表し, 挨拶運動を兼ねて全校生徒に呼びかける等, 生徒が主体となる取組が推進されている。

本年度取り組んだ「生徒会を中心とした取組」「教員が生徒に関わる時間の確保」をさらに推進するとともに, 更なる道徳や学活における指導を充実させることが望まれる。

評価項目3 生徒と向き合う時間の確保

<目標>

授業はもとより, 生徒の自主活動である部活動や休み時間, ワークシート等においても, 教師が関わったり, 見守ったりする時間をできる限り確保し, 生徒理解を深めるとともに指導に生かす。

【評価結果】 以下の内容を総合し, 4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

(評価結果の根拠・理由)

- ① 新しい指導法・教材教具等が数多く開発され, 研究授業等を通して全教員で共通理解することができている。
- ② 放課後はもとより週休日等にも活動する部活動などにほとんど対応することにより, 市大会, 県大会で上位入賞が増えている。
- ③ 前述したとおり「今もいじめが続いている」と訴える生徒, 及び不登校生徒が減る傾向にある。
- ④ 勤務負担を軽減するための様々なアイデアを生み出し実践することで, いくつかの業務を効率化することができている。

観点 3-1 生徒との関わりを深める取組の充実

授業中の指導を充実させることができたか。部活動や休み時間, ワークシート等の関わりを通して生徒理解を深めることができたか。また, こうした生徒と関わる時間を生み出すために勤務負担を軽減できたか。

(1) 教員一人一人の授業力の向上（資質向上プログラムの実施）

資質向上プログラムを実施することで、次の効果が期待でき、「生徒に対する授業の質の向上」に十分な成果を上げている。

- 各教職員の目標や課題の明確化
- 工夫を凝らした教育活動の充実
- 教職員の主体的・意欲的な取組の促進
- 職務遂行上、必要な能力の認識
- 教職員の指導・育成

(2) 部活動や休み時間、ワークシート等による関わり

- ① 年度当初に「緊急な対応等を除いて、放課後は必ず部活動の指導を行う。」「授業が継続しているときは、業間の休み時間にできるだけ生徒と関わる。」「昼食後の休み時間は学年担当教員の誰かが各該当学年階にて生徒に関わる。」を全教職員が共通理解し取り組んでいる。
- ② ワークシートについては、すべての教科において工夫を凝らし、教員が生徒の思考等を把握でき、フィードバックできるものを開発している。

(3) 勤務負担の縮減

① 学校事務の効率化

鳴門教育大学情報基盤センターと連携して、学校事務を簡素化するために、連絡用掲示板、スケジュール、教職員アンケート、TODO等の機能をもつグループウェアを新たに開発している。このグループウェアにより事務を軽減するとともに、自宅からも閲覧が可能となり、勤務場所を離れていくつかの業務を行うことを可能としている。

② 教育実習時間の縮減

本年度、実習生のパソコン使用を許可し教育実習時間を縮減している。

③ 教員の超過勤務内容の把握と効率化

「会議時間の終了時間予告」「文書点検時に修正案を提示」等、勤務負担を軽減するための様々なアイデアを生み出し実践することで、いくつかの業務を効率化することができている。

【参考】学校の現況及び目的

1 現況

- (1) 学校名 鳴門教育大学附属中学校
- (2) 所在地 徳島市中吉野町1丁目31番地
- (3) 学級等の構成
1 学年 4 学級 2 学年 4 学級
3 学年 4 学級 計 12 学級
- (4) 生徒数及び教員数(平成25年5月1日)
生徒数 472 人 教員数 23 人(正規教員)

2 目的

(1) 目的・使命

本校の目的は、附属中学校校則第1条において「小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を施すとともに、鳴門教育大学（以下「本学」という。）における生徒の教育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の実習等の実施に当たることを目的とする」と定めており、本校は義務教育を行う任務とともに、教員養成大学の附属中学校として、次のような使命をもった学校である。

- ① 大学と一体となって、教育の理論及び実践に関する科学的研究を行う研究学校としての使命
- ② 地域の教育諸課題の解明、参観者への指導・助言、文部科学省・県教委・地教委等教育関係機関からの要請による教員派遣など、教育界の発展に寄与する使命
- ③ 鳴門教育大学の学部学生及び大学院生の教育実習等を行う使命

(2) 教育目標

本校は、校則第1条に示されている中学校教育の目的の達成のため、次の教育目標を掲げ、めざす生徒像・教師像・学校像を明確に示している。

知・徳・体の調和的人格の完成をめざし、自主・自立の精神、創造的能力、豊かな人間性をそなえ、国際社会の発展に寄与することのできる心身ともにすこやかな中学生を育成する。

めざす生徒像

- 目標を持ち、自主的、創造的に学ぶ生徒
- 強靱な意志と体を持ち、たくましく生き抜く生徒
- 優しく思いやりの心を持ち、人につくす生徒

めざす教師像

- 生徒を愛し、生徒とともに伸びる教師
- 強い使命感、鋭い教育観をもった教師
- 優れた指導力をもった教師

めざす学校像

- 創造的な知性を磨く学問学校
- 情熱的な意志を鍛える鍛錬学校
- 強健な身体を練る体育学校
- 敬和奉仕の精神に生きる人間学校

(3) 平成25年度重点目標

鳴門教育大学との連携を密にし、中期目標・中期計画・本年度計画の実現に努めながら、次の3本柱5項目から教育目標の具現化を図る。

- ① 楽しい学校（思考力・判断力・表現力を育む授業の創造）
- ② いじめの撲滅
- ③ 生徒と向き合う時間の確保

(4) 評価項目

- ① 楽しい学校
 - 学ぶ喜びを実感できる授業の実践
 - 思考力等を高める指導方法、教材・教具等の開発
- ② いじめの撲滅
 - コミュニケーション力を高める活動の充実（生徒の本年度重点目標：伝わる言動）
 - いじめ調査の実施とその結果を踏まえた取組の充実
- ③ 生徒と向き合う時間の確保
 - 生徒との関わりを深める取組の充実